



学校だより

絆の草中

草野中学校 令和4年度第9号
令和4年10月14日
文責：校長 西田 英実

「草中祭」 もうすぐです

本校の最大の生徒会行事であり文化的行事である「草中祭」が迫ってきました。10月27日（木）に開催し

ます。おもな内容は、学級ごとの合唱コンクール、ビッグアート、日頃の学習の成果を展示・掲示する予定です。10月に入り、準備が本格的になってきました。様々な状況から、合唱の練習は音楽の時間プラス昼休みと放課後に限定。合唱を



楽譜を教室に掲示してパート練習する3年生



互いに聴き合い、感想やアドバイス（1年生と2年生）

創り上げることは簡単ではありませんが、時間を有効に使って一生懸命練習に励んでいます。来週は、「合唱リハーサル」が行われます。どこまでまとまっているか楽しみです。

尚、今年度も来場者は保護者のみとし、発表する学年ごとに入れ替え制とさせていただきます。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

放射線教育を実施しました

9月26日（月）、放射線教室を開きました。この教室は、東日本大震災・福島第一原発事故を受け、放射線に関する現状、確かな知識・理解を元に、正しく判断し安全に生活を送れるようにすることを目的としています。講師は、医療創生大学客員教授の石川哲夫先生。スライドでの説明に加えて実演、実験を交えながら、生徒にわかりやすく講話をしてくださいました。

その中でも、放射線は目に見えないが、客観的な数値で把握すれば、安全かどうか分かるというお話がありました。自然界の放射線、私たちの身近な生活に活用されている放射線など具体的な例を示していただき、「霧箱」で全員が放射線の様子を見ることができ、理解が深まりました。



「霧箱」で自然放射線の動きを見る生徒

先生も研修を積み重ねています

学習の秋。秋は、教職員が授業などの研修機会が増えます。授業をお互いに参観し、協議を重ね、指導的立場の方から助言を受けることは授業力向上に欠かせません。

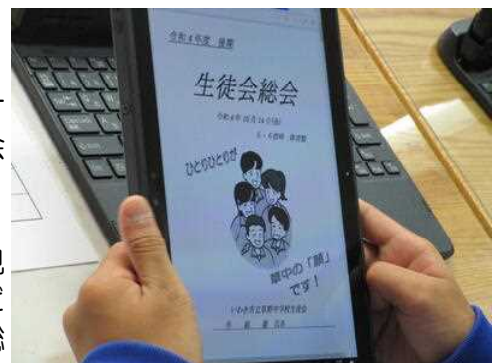
本校では、9月からお互いに授業を見合う「互見授業」が始まっています。また、10月3日（月）にはいわき市の中学校の教員が各学校に集まり授業研究会を行いました。本校では美術の授業を公開し、研究を深めました。1人1人丁寧な作品作りに訪問した先生方から賞賛の声をいただきました。



後期生徒会総会 ペーパーレスに挑戦

9月には後期生徒会役員、学級組織、各専門部の組織が決定し、10月14日（金）に後期生徒会総会が行われます。これまでオンライン会議を実施するなど工夫してきましたが、今回は、生徒会総会要項を電子化する試みをします。

各委員会などの原稿を電子化し、生徒1人1人が使用しているタブレットに送ります。生徒は各自のタブレットに入った要項を見ながら会議に参加します。ペーパーレスの試みです。メモ書きをどうするかなど課題もありますが、まず試みて、成果と反省を次の総会などに生かしていきます。



福島県PTA研究大会白河大会が開催されました



10月2日(日)、県PTA研究大会白河大会が白河文化交流館コミネスで開催されました。コロナ禍もあり、4年ぶりの参集開催でした。学校を代表して校長が参加しました。大会主題は「宝・連・創」～地域の宝である子どもたちのために、私たちが連携を図りながら笑顔あふれる未来を共に作りあげていこう～です。PTA活動に貢献なされた方々を表彰し、その後、講演。ごく一部ですが紹介します。

記念講演 演題「努力と工夫で何度でも立ち上がれ！」講師 ダルライザープランニング代表 和知健明様
*講師は地域おこしキャラクター「ダルライザー」として活躍。若い人材育成にも尽力。

1 自分自身の生き方から(要旨)

失敗してもよい。(命に関わることでなければ)とりあえずやってみる。行動しないとわからないことがある。やりながら修正していけば成功につながる。したがって、人生にムダはない。

2 ゴール(達成目標)から逆算して考える「逆算思考」も効果的。演劇も経験し、一つのものを創るとき、様々な担当が必要なことやスタートからゴールまで考えることができるようになった。

3 生徒への講演では「何になりたいか」だけでなく自分のできること(得意、長所、スキル)を生かして何ができるか、を考えることの大切さを話している。

4 できるかどうかは自分が決めている。「やってみよう」は「恐れ」も伴う。それは誰でも同じ。しかし、その二つの気持ちを抱えながら行動することが「成長」につながる。行動力とは、チャレンジしてあきらめないこと。経験が血肉となり、将来に生きる。

PTA県大会 分科会「特別支援教育」その1

講師 東京パラリンピックボッチャ監督 村上光輝様
テーマ「支援を必要としている子どもたちへの理解と共生社会」

1 チームづくりから学んだこと

ボッチャの選手は10人。障がいの種類も様々で、正直に言って正確に把握仕切れない。年齢も20歳から65歳までと幅広い。その日の体調も微妙に異なる。まさに「共生社会」。監督としてたどり着いたのは、こまめに話をして理解を深めること。チームのテーマを「一丸」とした。

2 相手に自分の話を聞いてほしいなら、たくさん人の話を聞くことが大切。相手の話をよく聞くことを心がけた。

3 応援されるには、たくさんの人を応援すること。

4 国連の基準では、日本はまだ「分離教室」。その結果、「配慮」が逆効果となることもある。

5 多様性をどうとらえるか。今後も人として多様性をもつチームビルディングをめざしたい。

分科会「特別支援教育」その2

東京オリンピック聖火ランナー常松桜様の意見発表「シロウサギ」から

1 色素が抜けるアルビノのため弱視である。

それ以外は通常の生活ができる。

2 しかし、「奇病」「怖い」と言われ自分自身もいやになり髪を黒く染めたこともあった。

3 高校入試でフルートの演奏をしたが、その評価以前に弱視を理由に門前払いのようになったのが最もつらかった。

4 医療科の学校へ進み、将来は医療関係の仕事をしたい。ありのままの自分が一番美しいと言えるようになりたい。(感動的な内容でした)

貴重な資料をありがとうございます

地域在住の方から、鉄道に関する資料をいただきました。早速校内に展示、活用させていただきます。ありがとうございました。



<今後の予定>

日	曜	おもな行事
17	月	合唱リハーサル1年
18	火	合唱リハーサル2年
19	水	合唱リハーサル3年 SC 出役
20	木	学校司書出役、ICT 支援員出役
21	金	学校司書出役、漢検
24	月	ICT 支援員 ※23(日)算数・数学ゾニアリカッ
25	火	3年実力テスト
26	水	SC 出役 草中祭最終準備
27	木	草中祭 学校司書出役
28	金	3年希望者三者懇談、学校司書出役



草野中のちょっといい話

先日、校地内外の環境を見て歩いていたら、偶然、ご近所の方々にお会いしました。会話の中で、こんなお話をいただきました。

「草野中の生徒はいいべ。素直で一生懸命。あいさつもいいよ。朝、晩に通っていくから、その姿を見ればわかる」、「もうすぐ、まちをきれいにする日*があっぺ。ここ(防火・防災のためのスペース)も近所のみんなで草刈りしてそれから自分たちの前の掃除だわい」とうれしそうに話すのです。

改めて地域の方々に見守られていることの安心感を感じると共に、地域の方々が子ども達を自慢に思っていることに、こちらこそ、嬉しさを感じました。心が温まる、とてもうれしいできごとでした。

※いわきのまちをきれいにする市民ぐるみ運動のこと